

原論I：学期末試験問題(1998年度)

伊藤幹夫

持ち込み不可

以下の各問に答えよ。最初の用語解説以外、行数は自由である。ただし、無意味に長く書いても減点の対象となるから注意すること。

1. 次の用語を解説せよ。(それぞれ2行以内)
 - (a) 国内総生産
 - (b) 粗投資
 - (c) 資本
 - (d) ハイパワード・マネー(ベースマネー)
 - (e) 消費の絶対所得仮説
2. 国民総支出を構成する総消費と総投資の時系列データを観察するとき、通常言われる特徴をまとめよ。
3. 単年度、あるいは高々二年続きの所得税の減税は、消費支出に大きな影響を与えないといわれる。その仕組みを示せ。
4. 利子率と資本財の価格、資本減耗率の三つに依存して、最適資本ストックが定まり、ひいては投資支出が定まることを授業で示した。以下の設問に答えよ。
 - (a) 投資支出の大きさと、利子率・資本財の価格・資本減耗率は、それぞれどのような関係にあるか。(増加関数であるとか、減少関数であるとか)
 - (b) 上のような関係は、どうして成立するのか、授業での説明に沿って述べよ。
5. 貨幣の需要は、経済主体のどのような選択行動に基づくかを述べよ。また、利子率の減少関数になる理由を、授業での説明に沿って述べよ。
6. 総供給が、物価水準の増加関数となると考えるためには、どのような前提をおく必要があるか。理由も述べよ。
7. 財政政策や金融政策の発動による総需要管理が、経済活動水準を制御できる場合と、できない場合、それぞれの前提となる状況を、総需要曲線と総供給曲線の形状で分類しながら、手際よくまとめよ。